

(数 学) 学 習 指 導 案

日 時	平成16年 5月25日(火)第1時限	授業者	(省略)
クラス	電 子 科 2 年	場 所	1 3 3 教室
単 元	第1章 方程式・式と証明	教科書	新 数学 (東京書籍)
指導目標	式と証明についての理解を深め、方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	指導計画	第1節 複素数と2次方程式……10時間 第2節 高次方程式 1 整式の除法と因数定理……4時間(本時その1) 2 高次方程式……3時間 3 問題演習……1時間 第3節 式と証明……9時間

本時の指導

主題(教材)	整式の除法				
前時の課題	課題プリント(整数の割り算の計算、除法の等式について確認)				
目 標	整数の割り算の仕組みと対比させることによって、多項式の割り算における商と余りの求め方を理解させる。 割り算の結果は1つの等式で表されることを理解させる。				
指 導 過 程	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項	評価の方法・基準等	
	(導入)	1 課題の確認をする。 2 本時の目標を確認する。	10	割り算の計算手順と、商と余りの答え方の要点について確認しておく。	< 関心・意欲・態度 > 意欲的に課題に取り組んでいるか。 目標の確認はできたか。
	(展開)	1 例1の解説を聞く。	10	最高次数の項に注目することを確認する。	< 数学的な見方・考え方 > 商になる項の立て方が正しく考えられているか。 引き算が正しく計算できているか。
		2 問1を解く。	10	余りが割る式より次数が低くなったところで計算が終わることを明確にさせる。	< 表現・処理 > 正しい手順で計算ができ、解答できているか。
	(整理)	3 除法の等式を確認する。	5	余白を取る必要がある場合について注意する。	
4 問2を解く。		10	解答した問題の結果から、除法の等式が成り立つことを確認する。	< 関心・意欲・態度 > 意欲的に問題に取り組んでいるか。	
	1 本時のまとめをする。 2 次時の内容を確認する。	5	除法の等式が様々な問題に利用できることを伝える。	< 知識・理解 > 本時の学習内容が理解できたか。	
備 考	生徒数 男子35名、女子5名 計40名				